

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究
—キャプション評価を援用した評価シートの作成—

研究分担者：松原 茂樹 国立大学法人大阪大学 工学研究科 准教授

研究要旨：非訪問型の住環境評価を行うための評価シートの検討・作成

A. 研究目的

認知症専門医と作業療法士などの多職種が協働して、感染症まん延下においても認知症者の認知症疾患別また重症度別に適切な在宅支援が可能となる非訪問型の生活評価・介入システムを構築するために、建築計画分野から住環境評価の指標を作成することを目的とする。

価を適切に行うことができるか検証することが今後の課題である。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

B. 研究方法

非訪問型の住環境評価の指標を作成するためにキャプション評価を援用し、評価シートを作成する。キャプション評価とは元来、都市景観評価のために 1995 年に開発された手法である。気になる箇所をカメラで撮影し、それについてのコメントを決まった書式に従って記述し、写真とコメントのセットで 1 枚のカードにして評価する手法である。

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

C. 研究結果

適切な在宅支援を行うため、行為とその場所を対応させた結果、玄関・エントランス、リビング、食堂、キッチン、寝室、洗面室・浴室を対象とし、それぞれで行う動作を選定した。また非訪問型で作業療法士等が評価を行うため、撮影内容と位置について検証を行った。

D. 今後の課題

住環境評価の指標により非訪問型の生活評